

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛騨神岡高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月11日(金) 14:30~16:30
- 3 開催場所 飛騨神岡高等学校 ゼミナール室
開催後に、白樺祭(文化祭)及び部活動参観を実施
- 4 参加者

会 長	川上 佳洋	NPO法人宇宙まるごと創生塾 飛騨アカデミー代表
副会長	梶家 圭吾	有限会社 かんや代表
委 員	植田 要助	地域代表
	島田 紀子	東洋建設資材株式会社
	田口由加子	NPO法人神岡・まちづくりネットワーク レールマウンテンバイク事務局
	田中 智枝	田中料理教室
	中島 一美	育友会会長
	山田ゆかり	総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人 飛騨シューレ
オブザーバー	都竹 淳也	飛騨市長(御欠席)
	布俣 正也	岐阜県議会議員(御欠席)
学 校 側	各務 友浩	校長
	野中 明子	教頭
	大坪 篤	事務長
	楯 幸司	教務主任
	川上 登	生徒指導主事
	平野 昌之	進路指導主事
	中村 英樹	教務部特別活動担当
生徒代表	前期生徒会より3名	

5 会議の概要(協議事項)

(1) 前期の学校の取組について

前期に行った教育活動(各分掌の取組、地域とかかわる取組、デジタル人材育成事業)について事前資料をもとに質問を受けた。

意見1:5月に3年生の保護者を対象にした進路についての説明会が行われているが反応はどうか。2月の2年生保護者を対象にした早い段階での説明会は評価できる。

⇒3年生の説明会ではこの後の就職・進学の手続きの説明が中心になる。内容に対する意見は特にいただけていない。2年生保護者対象の進路説明会は昨年まではオンラインであったが今年度は対面で実施する予定である。

(2) 学校評価アンケートの結果について

教頭から、学校評価アンケートの結果の考察資料の補足説明を行った。

意見2：本校の個別指導は高い評価を受けており、今後も少人数だからこそその個別指導を充実させてもらいたい。

(3) スクール・ミッションの策定について

校長から「高等学校に期待される社会的役割等（スクール・ミッション策定要領）」について説明し、現在の案を説明した。委員からは今後の学校運営も含めて多様な意見が出された。

(スクール・ミッションについて)

意見3：スクールポリシーとスクール・ミッションの位置づけはどのようになっているか。

⇒今年度、第4次教育振興計画が策定され、これに基づいて、各学校が社会的役割や目指す学校像を端的に表すものとしてスクール・ミッションを掲げることとなった。スクール・ミッションがありスクールポリシーがある。

(本校教育の魅力や期待)

意見4：本校が総合学科であるという特徴を生かして、ある特定の教育内容を履修単位として認めたり、小さな学校だからこそできる柔軟な履修方法を工夫したりして、単位認定に特色をもたせて本校の特色とできるとよい。

意見5：総合学科では学ぶ「産業社会と人間」を、今後も系列選択や進路選択に役立ててほしい。

意見6：工業高校や商業高校だと1年次から学習する専門科目について、本校のような総合学科では2年次からの学習となることに不安があると思うが、限られた時間だからこそ有効に時間を使おうという意識ができるし、本校の特色である少人数の個に応じた指導でもって対応できていると感じる。

意見7：系列を決めて入学してくる生徒もいるため、専門的な教科を1年次から選択できるようにしてはどうか。先を見通すための大切な1年間である1年次で専門科目を学ぶことで見通しが立てやすくなるのではないか。

意見8：2年次で系列別の学習が始まったあと、進路希望が変わった場合でも、柔軟な学習ができるようにしてほしい。

意見9：神岡の子どもは小さな時から少人数の中で一人一人を大切にされた雰囲気の中で育っている。この学習環境を大きく変えることなく、入学してからでも進路を考えることができる本校に進学し、一人一人のペースで将来を考えることができるとよい。

意見10:毎年実施している卒業生対象のアンケートでも本校の教育内容に対する評価は高い。学習指導、進路指導も一人一人に対応できていることが魅力。個別指導だからこそ進路変更にも対応できる。部活動については今後も活動内容や形態を考えれば魅力的な活動にできる。

意見11：先輩との関わりがないという意見があり、以前なら部活動で行われていた縦のつながりがなくなっているのではないかと懸念される。意識して設ける必要がある。

意見 12：入学者が増えることも大切だが、入学した生徒一人一人にとって「いい学校」になるためどうしたらいいかを考えていきたい。

(広報について)

意見 13：中学校では高校側で考えるより早く進路についての学習が始まっている。学校を紹介するにあたっては1、2年生への働きかけも必要。入学した生徒は本校のことを高く評価しており、実際の本校生徒の声を中学1、2年生に伝えることができるとよい。取得できる資格も知らせておくとよい。

意見 14：SNSの更新を生徒も行っているのか。

⇒生徒が制作した動画をInstagramに掲載することはある。生徒が制作したものは評判がよい。

意見 15：生徒と教員の距離が近いのが本校の魅力でもある。生徒が授業や教員のことを紹介するというような動画があってもよいと思う。

意見 16：少子化が進めば本校がなくなることも十分に考えられる。この危機感を生徒とも共有して、地域や中学生に訴えることも考えていきたい。本校入学者の増加が地域の発展につながる。

意見 17：日常生活の中で、本校の生徒と中学生が接することができる機会がもっとあるとよい。地域住民としても、もっと生徒と率直に意見を交換できる場があるとよい。

意見 18：これまでに地域や中学生に本校の良さを伝える活動は行っているが、期待する成果につなげることはなかなか難しい。本校の良さを知る者が、地域での日常の営みの中で本校の良さを伝える役割を担っていく必要がある。

6 代表生徒との懇談会

生徒会の代表が、生徒会の取組や学校生活等について話した。特に部活動に関する要望について活発な意見交換がされた。

(委員から出された意見や質問のみ記載)

意見 19：生徒の要望にはできることからすぐに応えてほしい。費用面に関係することなどは関係各所で協議してほしい。学校運営協議委員も関係する分野で協力していきたい。

意見 20：具体的に必要な費用、物品、協力の内容が明確になれば地域からの支援を得やすい。

意見 21：部活動費というのはどうなっているのか。

⇒生徒の数が減っていく中、部活動後援会費も減っており、それが部活動の運営に影響しているということがある。

意見 22：生徒からの要望についてはもう少し掘り下げて、どこに根本的な要因があるのかを追究し根本からの改善に向けて取り組んでほしい。

意見 23：生徒の要望についてどのように対応したかは報告してほしい。

7 会議のまとめ

本委員会では、スクール・ミッションの原案について説明し意見をいただいた。また、生徒代表との懇談会後には、実際に生徒の声を聴いたうえで、本校のこれからの在り方について活発な意見交換がされた。この地域の子どもたちの成長に本校が果たすべき役割を、委員とともに再確認する場とすることができた。